

＝野菜の新産地をめざして＝

稲転が生んだ平取町の トマト栽培と今後の課題

北海道日高西部地区農業改良普及所 農業改良普及員 竹岡 新次

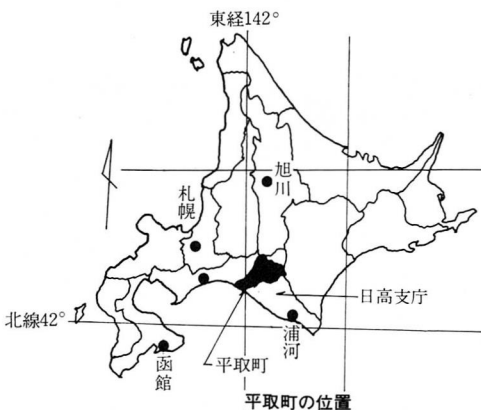
はじめに

稲作転換により減反された面積での農業収入をいかにしてあげるか、それはなんといっても単位当たりの収益が高く回転の早い野菜栽培の生産技術確立とあわせて苫小牧東部工業基地および札幌圏への野菜の供給基地造成の一環として、稲転事業により野菜の共同育苗ハウスを設けトマト、キュウリの栽培にのりだし、その生産されたトマトを札幌中央卸売市場に出荷したところ品質、型、味で大好評をえて全道一の銘柄品として取扱われるようになったので、その経過と、とくに栽培技術、出荷等さらに今後の課題について紹介いたします。

と　こ　ろ

北海道は苫小牧から日高線を南下し約1時間で門別町富川につく、そしてバスで約20分の所に位置する町、そこが平取町である。

ピラトリとはアイヌ語で「丘陵の急斜面の間」という意味であり、その名の通り日高山脈につら



なる日高第一の長流、沙流川の流域にひろがる、農業を主体とした純農村地帯である。

町内を大きくわけて平取地区、貫気別地区、振内地区に分けられる。

平取地区は1部に軽種馬生産を含むが、ほとんど沙流川下流に広がる水田地帯で、ここがこれから紹介する平取町トマトの生産団地である。

1 平取町の農業概況

(1) 主要農作物収穫面積 S52年調 ha

農家戸数	水田面積	飼料作物	野 菜	雑こく	馬鈴薯	大 豆	小 豆	計
851戸	1,250	303	183	67	40	40	123	2,006

(2) 家畜飼養頭数

乳 用 牛		肉 用 牛		軽 種 馬		養 豚	
飼養戸数	頭 数	飼養戸数	頭 数	飼養戸数	頭 数	飼養戸数	頭 数
80 戸	1,210頭	116戸	1,460頭	180戸	605頭	40 戸	1,283頭

(3) 経営型態別専業兼業農家戸数

総農家戸数	専 業 農 家					農業を主体とする兼業農家					計
	酪農	混同	田作	田畑	畑	酪農	混同	田作	田畑	畑	
823戸	37戸	42戸	165	30戸	36戸	12戸	19戸	178	34戸	18戸	571戸

※ そのほかに兼業を主体とする兼業農家252戸ある。

2 平取町におけるトマトの作付面積と生産量及び生産額の推移

年度	作付面積	総販売量	総販売額	3.3㎡当収量	平均単価	備 考
S48	86a	47,000kg	4,277千円	19.2kg	91円	
49	110	72,000	11,232	24.6	156	
50	142	121,000	19,360	28.0	160	
51	210	189,000	29,000	30.5	152	
52	250	223,900	37,133	29.6	172	
53	253	217,000	36,561	26.0	168	
54	268	230,000	41,400	30.0	180	目 標

3 気象条件

気 象 状 況

区 分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計	年平均	生長期 間平均
気 温 (平均℃)	- 8.6	- 6.4	0.1	7.9	13.6	17.0	20.9	21.8	17.9	11.0	3.5	- 5.1	93.6	7.8	15.7
最高(℃)	0.6	1.5	5.1	11.8	17.7	20.9	24.9	26.1	22.3	16.9	9.5	2.7	160.0	13.3	20.1
最低(℃)	-13.7	-12.1	- 6.4	0.3	5.6	9.1	15.2	16.7	10.9	3.8	- 1.5	- 9.2	18.7	1.6	8.8
湿度 (平均%)	527	55.4	56.6	56.4	52.5	70.2	75.6	71.3	66.5	64.6	63.6	57.0	742.4	61.9	65.3
降水量 (mm)	37.1	46.9	59.6	85.9	119.1	134.6	119.5	137.4	169.9	90.6	72.2	67.5	1140.3	95.0	122.4
降雪日数	12.2	9.4	11.0	10.2	12.4	10.0	12.0	12.2	12.6	9.8	10.8	11.0	133.6	11.1	11.3
風 方 向	NW	NW	NW	S	S	S	S	NW	NW	NW	NW	NW	—	—	—

降雪期間 11月29日～3月15日 根雪期間 12月10日～3月15日 積雪量(年間累計) 1.39m

早 霜 10月1日 晩霜 4月26日 霜日数 136日 積算気温 平年 2,585℃ 53年 2,691℃

観 測 地 平取観測地 位置 東経142度3分～142度53分 北緯42度～42度52分

期間 昭和41年1月1日～昭和45年12月31日

上記表の通りで夏期は東南，冬期は西北の風が吹くが，四季を通じて比較的温暖であり，最近5カ年の平均気象は最高7月31℃，最低気温は1月で零下24℃である。

降水量は6月から9月が多く，昭和41年8月に

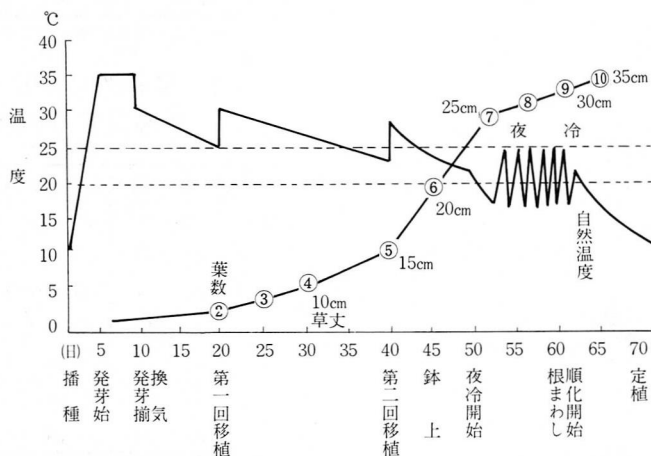
253mmを記録しているが月平均97mmである。積雪は少なく交通上大きな支障はない。とくに9月から11月にかけての日照が長く晴天が多いことが特長である。

4 平取町における野菜の作型

	作物名	品 種 名	播種及び伏込	定 植	収穫始 終		作物名	品 種 名	播種及び伏込	定 植	収穫始 終
ハ ウ ス	刈タイナ	雪白タイナ	1月中旬		2月下旬～3月上旬	露 地	長いも	夕張種	5月中旬		10月中旬～11月上旬
	刈ミツバ	白茎ミツバ	11月中旬		12月中旬～1月上旬		ゴボウ	南部白ゴボウ	5月上旬		9月中旬
	トマト	ひかり福寿	2月上旬	4月上旬	6月中旬～7月下旬		キャベツ	札幌大球2号	6月上旬	7月上旬	10月中旬～下旬
	キュウリ	ときわ光3号P	7月上旬	8月上旬	9月上旬～11月中旬		カボチャ	えびす	4月下旬	5月中旬	7月下旬

5 トマトの育苗目標と栽培暦

(1) トマト育苗中の温度調節と生育目標 (65～70日苗)



(2) 栽培 暦

品種名 ひかり福寿

月	2			3			4			5			6			7			8	
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育	○ 播種						△ 定植						□ 収穫始			◇ 収穫終				
作業名	播種準備	播種床管理	間第一回移植	第二回移植	鉢上げ	夜冷開始	順定植準備	トンネル張り	主誘引柱芽カキ	ホルモン処理	摘果	追肥	収穫開始	4段階摘芯	収穫完了	あとかたづけ				
生理	発芽			花芽分化			開花			果実の肥大			着色始							
病防	立						ア				萎葉斑	灰カビ	スジグサレ病							
害	枯						ブ				凋	点カビ								
虫除	病						虫				病	病	病							

6 平取町のトマト栽培概況

当町は雪が少なく、年間を通じて温暖な気候で野菜栽培に適し、札幌や苫小牧などの消費都市に近く立地条件にも恵まれたところである。

このため、四季を通して新鮮な野菜を供給するハウス栽培が各地でさかんに行われている。

ここで、順調な歩みを続けているのがトマト栽培である。

7 米にかわる新しい農業野菜のハウス栽培

当町は以前から野菜栽培の適地と考えられてい



トマトの収穫状況

たが、これまでは農家が自家消費するだけの小規模のものがほとんどで、恵まれた条件を充分生かしきれず、他の町村に比べて生産が遅れていた、しかし、稲転をきっかけで始められたハウス栽培が軌道にのり平取町のトマト、キュウリがさかんに栽培され、いまでは野菜の産地として注目されるようになってきた。

平取町産の野菜の品質は先進地のものと比較しても優れているため、その評価も次第に高まってきた。

なかでも平取町の紫雲古津、荷菜、去場地区で栽培されているトマトは米の過剰時代を迎え、米にかわる新しい農業として始められたもので、今年で6年目になる。

最初はわずか25戸の水田農家が生産組合を作り、栽培面積も86a、育苗ハウス3棟でスタートしたが、稲転事業、第2次構造改善事業で国、道、町の補助を受け現在では戸数も2倍近い47戸、面積も2.7ha、育苗ハウスも13棟、栽培ハウスも大小あわせて150棟と順調に伸びてきている。

昭和53年の生産量は217tと昭和48年の50tに比べると約5倍強の生産量にまで成長した。

8 品質では北海道一、札幌市場で最高値も

ここで生産されたトマトは味、型、色、つやが非常によく、札幌中央卸売市場でも北海道一のおりがみがつけられ、最高のセリ値でどんどん取引されている。

出荷先は札幌市や苫小牧市が主体で平取トマトとして銘柄も定着してきている。

トマトは特に天候に左右されやすい野菜といわれているが、この地区は温暖な気候が優れた品質の維持に大きな力となっている。

また出荷時も品質を統一するために農協の職員が検査を担当し入念なチェックを行っている。

9 ハウス促成、抑制の通年栽培

当町で栽培されているのは促成トマトで2月上旬に播種し、4月上旬に定植し、6月中旬の札幌祭に向けての早出し栽培である。

育苗ハウスではトマトのほか抑制キュウリ、刈ミツバ、刈タイナなどの通年栽培が行われている。

10 札幌市中央卸売市場における産地別出荷数量及び価格の推移

図1の(1)の支庁別調査の通り平取町産トマトは生産量では148tと少ないが単価については188円と非常によいことがわかる。

図1の(2)の産地別調査の通りで平取農協産トマトの単価については洞爺農協、大野農協産について非常によいことがわかる。

図3の通りで特に出荷期間の価格については札幌丸果市場の月別、旬別と価格が常に上廻っているような状態である。

また札幌丸果市場の総出荷量に対する平取産トマトの旬別出荷割合は6月下旬は12%、7月上旬は28%、7月中旬は15%と総出荷量に対する割合が高く重要な位置をしめていることがわかる。

11 札幌丸果市場における平取産トマトの位置づけ

図2の通り主要産地別の出荷量をみると平取産トマトは6月下旬、7月上旬、中旬が総出荷量の大部分をしめていることがわかる。

図1～3の通りで平取産トマトは6月中旬の札幌祭から8月上旬までの無加温ハウス栽培である。

その出荷量も6月下旬、7月上旬、中旬とその出荷量も大部分をしめている。

また平取産トマトは大野産、洞爺産トマトの出荷前後期に出荷されるので、ちょうど品不足になるため価格が高く安定している。

平取産トマトと競合する産地は収穫後期に仁木

図1 昭和52年度産道内トマト産地生産状況 (札幌中央卸売市場調べ)
(1) 支庁別調査

	生産量	単価	生産前年対比	単価前年対比
石狩	718t	110円	94%	119%
空知	283t	124円	76%	118%
後志	661t	137円	85%	136%
胆振	255t	192円	80%	114%
上川	64t	175円	75%	99%
渡島	303t	191円	90%	113%
日高	148t	188円	111%	113%
総計平均	2,434t	144円	87%	120%

※日高は平取農協のみである。

(2) 産地別調査

産地	出荷期	作型	生産量	単価	単価前年対比
洞爺農協	5月中～7月下	ハウス	234t	199円	110%
大野農協	5月中～7月下	ハウス	91t	199円	93%
平取農協	6月中～8月上	無加温ハウス	148t	188円	113%
余市農協	6月～9月上	無加温ハウス 露地	175t	155円	125%
仁木農協	7月中～10月中	露地	361t	132円	155%
夕張農協	7月上～8月下	トンネル 露地	119t	123円	109%
野幌農協	8月下～10月下	露地	159t	118円	105%
森農協	9月上～10月中	抑制ハウス 抑制ハウス	118t	203円	141%

※平取農協は札幌(豊)の外に苫小牧(○)市場に76t 出荷

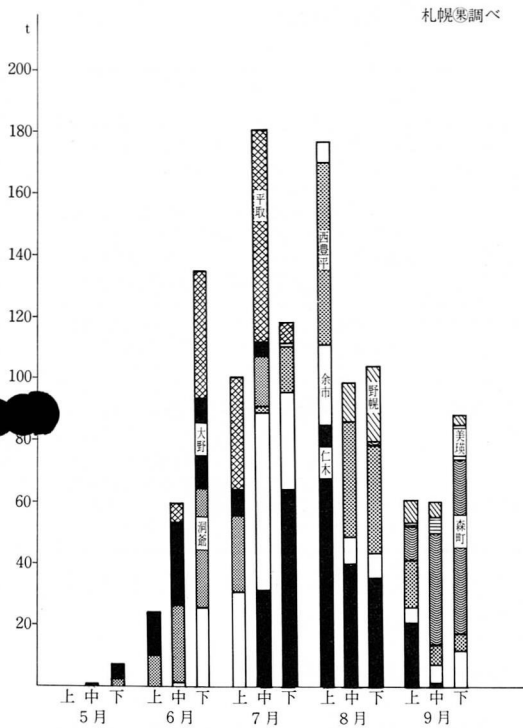
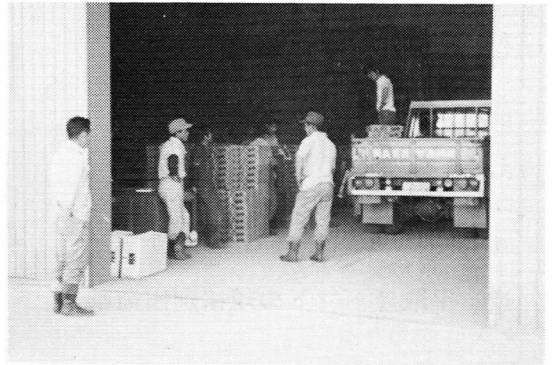
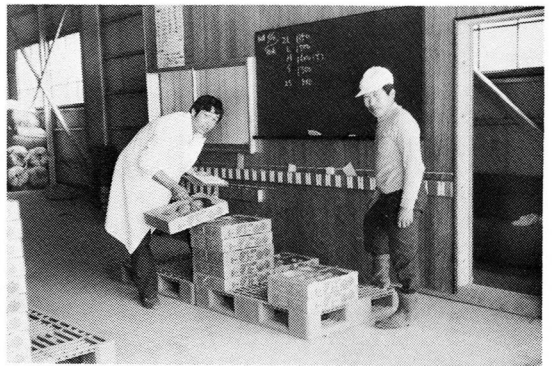


図2 トマトの主要産地別出荷量 (昭和53年)



トマトの出荷状況



トマトの検査状況

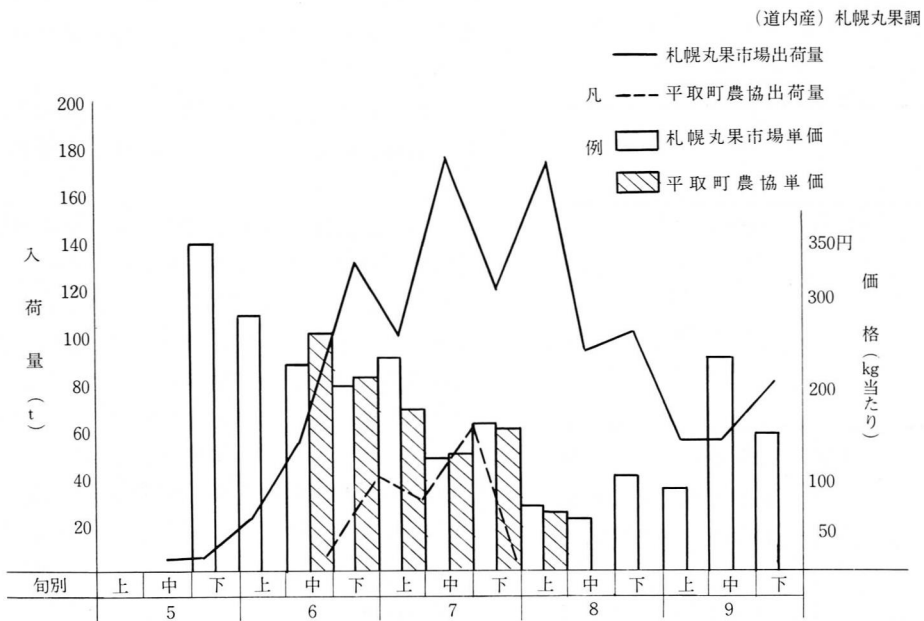


図3 昭和53年トマトの入荷量と価格

産の露地トマトが早く出たときのみ競合して価格が若干下ることがあるくらいである。

このように平取産トマトは価格が比較的高い時に出荷されるため価格が良く安定しているものと考えられる。

以上のように札幌丸果市場での平取産トマトの位置は重要な位置にあることがわかる。

12 平取産トマトの規格別出荷割合

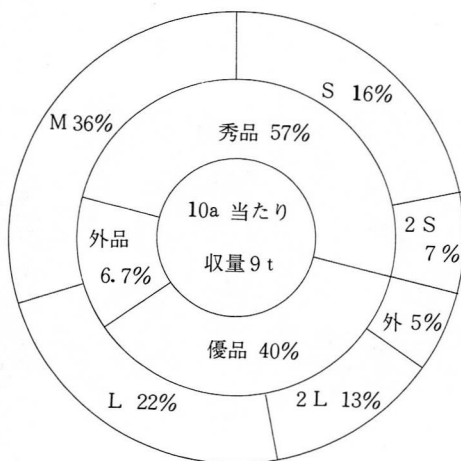


図4 トマトの規格別出荷割合 (%)

トマト等級区分

秀	果形正常、着色良好、空洞果なし
優	果形が少しくずれている、着色まだら空洞のおそれのあるもの
外	果形がまったくみだれているもの

トマトの規格区分

2	L	4 kg箱詰	12 ~ 15ヶ
	L		16 ~ 24
	M		21 ~ 24
	S		28 ~ 37
2	S		34 ~ 40
M	1		25 ~ 27

図4の通りトマトの規格別出荷割合をみると10a当たりの収量は9tでその規格別出荷割合は価格の高いL, M, S品が全体の74%をしめていることがわかる。

また等級別については秀品が全体の57%と非常によく、外品は僅か6.7%とまったく少なくなっていることがわかる。

なお今後は秀品の割合がさらに高まるものと考えられる。

13 当面の課題と対策

課題	改善対策
1. 連作による塩類濃度障害と土壌病害虫の発生	土壌検査の実施による早期対策。床土造成。土壌消毒の完全実施。病害虫の早期発見防止の励行
2. スジクサレ果空洞果防止と着色促進	抵抗性品種の導入、小室素施用、採光増大、着果草勢のバランスをとる。トマトトンとジベレリンの併用処理。日中温度30℃以下夜間20℃以下
3. トマトのTMV防止	弱毒ウイルスの接種、6年間実施しているが今後も続けて実施する
4. 産地維持と安定拡大	産地の維持と安定拡大を今後もはかる。
5. 選果場の建設	生産量の増加に対処すると共に選果労力の省力化と規格及び品質の統一をはかる。

※これらの課題を改善し対策をこうじて行かないと産地の維持拡大はできない。

14 今後の振興と課題

今後は稲作転換事業と第2次構造改善事業でハウスの建設と暖房機の導入と新農業改善事業でトマトの選果場を建設することによって選果労力の省力化と面積の拡大と生産量の増大と安定向上を計ることができる。

このことによって昭和59年頃までにはトマトの栽培面積を約3.5haと戸数60戸まで増す計画である。

さらに暖房機の大幅な導入により早期栽培と価格の高い時に早期出荷を計る計画である。

さらにまた産地を拡大するために平取町以外の隣接町村と協力して野菜の指定産地を作り都市圏への野菜の一大供給基地として期待されている。

お知らせ

中央研究農場の電話番号が変わります

来る2月21日(水)より弊社中央研究農場の電話番号が局番から変わりますのでご案内申し上げます。

新番号 01238-4-2121